

令和5年度 教育課程特例校実施状況（自己評価・学校関係者評価）

1. 教育課程特例校としての取り組み

本校では、多様性を重視し、中学入学時までに様々な教育的背景をもった生徒たちを受け入れ、彼らの能力や適性をさらに伸ばす教育課程を提供している。多くの帰国生、外国籍生徒、二重国籍生徒などが在籍し、数学・理科・社会の3教科を英語で教えるイマージョン教育を行うことで総合的な英語力の進捗を図り、共に協力して、学び合う多様な教育を実践している。

2. 学校評価（自己評価並びに学校関係者評価）

		自己評価		学校関係者評価
	評価	現状・課題・反省	総合評価	意見・要望
指導体制	A	本校には、6名の外国人教員がフルタイムで勤務しており、日本人教員と同様にHRクラス担任や授業教科指導などお互いに連携をしながら生徒指導・保護者会・授業カリキュラム・指導案・試験などの作成を行っている。外国人教員はインター推進部に所属し、各校務にリーダーを設置しリーダーシップを発揮して、本校独自の教育を実践している。	A	・中学入学までの教育・生育の環境と背景が多様な同級生に囲まれているために、自然と Diversity & Inclusive について考える機会が日々の学園生活の中にある。また、本校には外国人教員の背景も同様に多様であるために、教科指導だけにとどまらず多方面にわたり生徒は多くの刺激を受けることのできる環境が整ってきている。 ・インターナショナルクラスでは、全員が週2時間、オールイングリッシュによる探究学習の授業”Salesian Academic Program”を受けており、文化学・環境問題・社会問題について多角的な視点に基づいて分析するスキルを基礎から養っている。タブレットを活用し情報収集から始まり、グループワーク、ディスカッション、ポスターセッション、プレゼンテーション、アカデミックライティング等の様々なスキルを学び向上させ
授業内容	A	学習指導要領をベースに外国の教科書なども使用し、ローカルとグローバル両方の視野を持てるように指導している。すべての教科でPBL型授業を展開し、ロジカル・クリティカル・クリエイティブな思考力を深め磨く工夫を構築している。主要教科を英語で行うことで、英語力の伸長だけでなく、グローバルな思考を養い将来的にはグローバルに活躍する人を育てることを目指している。		
生徒への対応	A	HRにおいては、外国人教員と日本人教員がペアになって担任・副担業務を担っており、生徒それぞれのバックグラウンドに配慮しながらHR運営をおこない、対応		

		<p>をしている。授業においては、生徒主体のインタラクティブな授業設計を心がけており、生徒自身が自己を表現できる機会を多く与えている。</p>	<p>ていくとともに、発信するスキルも磨いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部試験の TOEFL Junior を次年度から本科・インタークラスで実施予定。 ・年に2回、学校イベントにおいて英語でプレゼンテーションをする機会があるので、生徒も教員もその機会をひとつの目標として積極的に取り組むことができている。 ・外国人教員は親しみやすく、意欲的にすべての学校業務に携わっている。新しいアイデアを持ち寄り、職員室や教科会においても刺激をもたらしている。また、生徒の生活指導と学習指導、アカデミックスキルの向上に多大なる貢献をしている。 ・日本人教員と外国人教員とが今後さらに連携がスムーズに取れるようになると良い。そのため、本校では外国人教員が日本人教員に英会話レッスンを実施しており、英語力の向上だけでなく、互いを知り合う交流の場ともなっており有機的に機能している。
情報提供	B	<p>学校 HP や配布のパンフレット、学校説明会などにおいて本校の実践しているイマージョン教育を説明している。シラバスなどを学校の HP に公開している。</p>	
効果	B	<p>多くの生徒に英語力の向上だけでなく、思考力やコミュニケーション能力などのアカデミックスキルの向上が見て取れる。</p>	
その他			